

能代JC

[秋田]

例会はまちづくりへの思いで 喧々諤々、JCの熱い志は不変

わがまち能代は秋田県の北部、青森県と隣接する日本海側、世界遺産白神山地のふもとに位置し、1907年(明治40)、水戸出身の井坂直幹が後に東洋一と呼ばれる「秋田木材株式会社」を設立。やがて「木都能代」と称されるまでになりました。

現在、木材業の分野では、資源の乏や外国産木材の流入など、業態の転換が求められています。その需要に対応すべく米代川河口の港町として、2000年度に4万ト級岸壁を整備するなど、北東北の玄関港の一つとなっています。また、07年の秋田わか杉国体に向け、遅ればせながら高速交通体系の整備も順調に進みつつあり、さらなる飛躍を目指しています。

また、全国優勝56回を誇る能代工業高校をはじめ「バスケのまち能代」としても全国的に有名になっています。市町村合併の進展にともない、この地域も一つの市に再編されようとしています。その流れに先んじて一昨年、能代JCと二ツ井JCは前例のない合流という形で一つのJCとなりました。それぞれのJCの創始の精神、そして歴史と伝統を継承し、かつ融合させることによって、さらなる可能性を引き出せる形として全国的にも注目されました。この合流2年後の本年3月には、二ツ井地区と合併を迎え、市としても広域的な視野で新たなまち

能代

JCは今年、55年の節目を迎える大切な年となります。

偶然にも二ツ井地区からの理事長を輩出し、周年事業を成功させるべく企画中和のこと。能代JCシニアクラブとしても現役の支えとなるべくバックアップしていきたいと考えております。

当シニアクラブの事業は、総会・現役



6月23日に行われた勉強会の後で

と合同による新年祝賀会、年に2回の定例会、現役とのふれあいの場「ながいもゴルフコンペ」では珍プレイ好プレイ続出。和気あいあいと交流を図っております。

昨年の新しい試みは、合流した二ツ井JC O B会と初の合同例会を開催し、きりたんぼ鍋を囲みながら、中心市街地活性化の話題をはじめ、今後

のまちづくりの問題、同メンバーの各

議員の方々から話題提供、政治への苦情やら意見、喧々諤々、丸まる3時間マイクが飛び交っていました。カラオケでマイクを離さないのはよくありますが、まちづくりでマイクを離さないのはJCの血がまだに流れている証拠。認証番号23番の熱い志は不変です。これで体が動けば最強のまちづくり集団となるはず。しかし、後輩の育成のために涙を飲んで耐えているのです。この



合同例会では各々がまちづくりの話に熱弁を振るった

交流事業は今後毎年交互に開催し、より一層交流を深め、現役とともに、

地域の貴重なサポーターとして地元発展のため協力していくことを再確認し、初回の会を閉じました。

後継者を育てるのは、私たちシニアクラブのメンバーの役目だと思います。後継者が育たない地域の発展はあり得ません。そのことを胸に一致団結し、現役への協力と後継者育成活動に力を注ごうではありませんか。

日本JCシニア・クラブ

秋田ブロック担当幹事 能登信一